

Gonda, Gentaro

権田 源太郎

1950年生まれ（71歳） 神奈川県在住
 1973年3月 慶應義塾大学経済学部卒業
 同年4月（株）トーメン入社
 1977年9月 同社退職。権田金属工業株式会社（伸銅品製造販売、不動産賃貸）入社
 1983年11月より同社代表取締役社長
 外部団体役職
 日本伸銅協会理事 過去副会長2回
 日本銅センター監事
 神奈川経済同友会 幹事
 褒章
 2020年 旭日単光章受章

著書

「挑戦するチェス」 中央公論事業出版刊 2001年
 「はじめてのチェス」 中央公論事業出版刊 2002年

チェス略歴

1969年12月当時の日本チェス協会入会。
 以来、全日本チャンピオン12回。世界選手権（個人戦）第10ゾーン代表1回、チェスオリンピアード代表4回。
 チェスではほとんどプレーに専念していましたが、1980年前後の一時期は松本氏の依頼で5人ほどで運営委員のようなことをやっていました。当時は大会も多く参加者がいました。今日までに数回チェスが盛り上がりそうな時期がありましたが、うまく生かせていません。

NCSの会報発行や会員の管理、大会運営など以前の団体の時と比べ格段に良くなっていると思います。これをヒーバート・由美子さんと山田さんの二人の理事を中心に10数名のボランティアの方で行われているのは素晴らしいことだと思います。

私は長年チェスをやって来て、楽しいこともたくさんありましたし、いろいろ勉強になることもありました。チェスに対する恩返しもかねて、NCSがこれからさらに発展するために貢献したいと思い、理事に立候補いたしました。

はじめにお断りしておかなくてはなりません、私の英語は簡単な会話程度で、英語を使っているの交渉には不十分です。また現役の社長のためすべてのイベントに参加することは難しいと思います。ただし、チェスをやる方には英語の堪能な方も多く、またいろいろな役をやって頂ける方も多く思っています。そういう方たちと一緒に協力しながらNCSをさらに発展させたいと思います。長年経営者としてやってきて、失敗もありましたが、組織運営や会の発展、人材登用などにおいて、経営者としてやってきた知識、経験と、今まで培ってきた人脈は、必ずやお役に立てると思っています。

一般社団法人NCSが日本のすべてのチェスプレイヤーを代表す

る組織としてやるべきことは、大きく分けて次のようなことだと考えます。

1. 会員相互の交流の場を作ること
2. 会員の数を増やすこと
3. トッププレイヤーのレベルを上げること
4. F I D Eをはじめ海外の団体との交流を図ること

そのためには、まず一般社団法人としての会の運営を強固にしていく必要があります。初めのうちは無給のボランティアが中心にならざるを得ないと思いますが、複数名の理事と監事が必要です。また、いろいろな役割を果たして頂けるスタッフも必要になります。もちろん会の理念や目標に賛同して頂ける方を募る必要があります。会の方針決定や大会運営、会報発行、会員管理等々、やるべきことはいろいろあると思いますが、チームワークよく力を合わせて取り組んでいきたいと思っています。

会員数を増やすことに関しては、来るものは拒まずはもちろんのこと、まだNCSに入って頂いてない、いろいろなチェスの会に入会を求めているかどうかと思います。「仲間は多いほど楽しい。」「仲間が多いほど強くなる。」の精神でやればと思い

ます。もちろんこれも会の理念と目標に賛同して頂くことが前提ですが。

組織をより良く、しっかりとしたものにするには、資金面の充実は欠かせません。会員拡大や大会の主催はそのためにも必要です。

会員が増え、大会参加者が多くなれば、スポンサーを募ることも可能になります。外部のいろいろな方と話していて、一般の方が持っているチェスのイメージはかなり良いものです。藤井さんの活躍で将棋に大変注目が集まり、若い人の関心が高まっていますが、チェスの持つ国際性やスピーディーな試合運び、プロアマの壁のないオープンかつ世界的な広がりなど、地道に啓蒙を続けていけばさらに普及させることは可能です。

コロナ前のチーム戦などは多くの参加者が集まり、インパクトがありました。スポンサーを募ることに関しては、将来的に私の人脈も役に立てると思えます。

理事に選んで頂いた際には、お手伝いして頂ける方と協力しながら、先頭に立って会を盛り上げていきたいと思っています。

Manabe, Hiroshi

真鍋 浩

1966年生まれ(55歳) 東京都在住
 学歴：1989年 東京大学理学部卒
 2002年米国バンダービルト大学経営大学院卒
 職歴：1989年 住友銀行(現三井住友銀行)入行
 同行 経営企画部付部長、マーケティング戦略室長、
 リテール統括部付部長等を経て
 2015年より SMBC信託銀行
 同行 執行役員経営企画部長、執行役員人事部長等を経て
 現在 執行役員コーポレートスタッフ部門副担当

主なチェス入賞歴：
 2007年 東京オープン3位、快速選手権4位
 2008年 ジャパンリーグ2位、ジャパンオープン4位
 2010年 全日本百傑戦4位、快速選手権4位、チーム選手権優勝
 2017年、2018年 シニア選手権連続優勝

自己紹介

私のチェス歴は約25年ですが、本格的にトーナメントに出始めたのは米国留学中の2001年で、地元のナッシュビル・チェスセンターに入会し、市の大会でも優勝しました。日本に帰国後は、継続的にJCAの大会に参加し、2007年以降、2000点超のレーティングを維持して来ました。過去の大会では、何度か上位入賞を経験し、また直近では2017年と2018年にシニア選手権で優勝しました。地域クラブは北千住チェスクラブ(旧名称：松戸チェスクラブ)に所属し、チーム選手権ではリーダーを務めて来ました。また、日本唯一のチェスプロブレムの専門誌「プロブレムパラダイス」誌の編集にも長年携わって来ました。

私は今年55歳になり、これからはプレイヤーとしての活動は縮小し、NCSの組織運営や大会運営を通じてチェス界に貢献、恩返しをしたいと考え、今回の立候補に至りました。

理事職務の遂行

選挙要綱に記載されている通り、理事は様々なスキルが求められ、かつ多様な職務を精力的に遂行して行く必要があります。

まず、英語力に関しては、海外留学(米国)や海外勤務(シ

ンガポール)経験の他、企業買収を含む豊富な英語での交渉経験があります(TOEICは985点)。ヒーバートさんが築いて来られたFIDEとの良好な関係を維持・強化し、日本のプレゼンス向上や、国際資格取得者の増加、組織運営や大会運営へのグローバル視点の取り入れといったNCSの活動を一層推進して行きたいと考えています。

判断力や組織運営力に関しては、銀行勤務で経験して来た経営企画・人事・新規事業等、様々な知見をNCSのこれからの運営に活かすことができると考えています。特にNCSは、年齢・性別・国籍・棋力等、非常に多様な人々の集まりであり、理事には強いリーダーシップが求められます。私は長年、大きな組織の管理職・経営職を務めて来ており、NCSの理事としても、強いリーダーシップを持って、職務に当たりたいと思います。

またNCSの特長のひとつは、インターネットの活用にあると思います。会報発行を含む会員とのオンライン・コミュニケーションや、オンライン大会の開催は、今後も強化推進して行く必要があると思います。私はネットマーケティングの実務経験も含めて、豊富な経験とスキルを持ち合わせていますので、これを活かして、一層の取組強化を図って行きたいと思います。

今後の抱負

2019年に立ち上がったNCSはヒーバート由美子さんと山田明弘さんのリーダーシップでこれまで順調に発展して来ました。まだ歴史の浅い組織であり、後任の理事はNCS創設の理念を共有し、継続性を重視して組織運営を行うことが重要であると考えます。幸いにも私は、ヒーバートさんと山田さんともこの3年間良くコミュニケーションを取らせていただいております。円滑に運営を引き継いだ上で、更にNCSをより大きく活発な組織としていく為に、例えば、会員の皆さまの意見を伺い、日本のチェス界の目指す姿(ビジョン)を定め、そこに至るアクションプランを決め、それを皆さまと共に着実に実行して行く、そのような理事としての活動を行いたいと考えています。

チェスに対する熱い思いを持ち、運営に関する透明性を保ち、会員の皆さんとの公平なコミュニケーションを続けることで、チェスを楽しむ人々のコミュニティを、より活発でより大きなものにして行きたいと思います。

Ogasa, Seiichi

小笠 誠一

1954年生まれ（67歳） 千葉県在住
 1979年3月 慶應義塾大学 経済学部 卒業
 1980年4月 権田金属（株） 入社
 1981年3月 権田金属（株） 退職
 1981年7月 日本信販（株）（現 三菱UFJニコス（株）） 入社
 2007年12月 三菱UFJニコス（株） 主査で 退職
 2008年12月 東京海上日動火災保険（株） 入社（損害サービス主任）
 2017年6月 東京海上日動火災保険（株） 定年退職
 2017年7月 （株）東京海上日動キャリアサービス 入社（派遣社員として前職務をパート勤務）

チェスの経歴
 1977年 3月 慶應大学チェスクラブ入部（チェスを本格的に始める。）
 1994年 柏サンキンキングチェスサークル（現北千住チェスクラブの前進）を設立。
 1994年 チェス3段取得（日本チェス協会）
 2005年 静岡チェスサークルを設立。
 2008年 『チェス戦略大全Ⅰ』（翻訳本）を出版。
 2010年 『チェス戦略大全Ⅱ』（翻訳本）を出版。
 2013年 松本メモリアルゴールデンオープンで優勝。
 2015年 「チャレンジ4」で初心者コースのレッスン講師を始める。
 2019年 クリスマス・チェスパーティで優勝。
 2019年 テレビドラマ『相棒』（テレビ朝日）のチェス指導を担当。
 2020年 千葉チェスクラブの代表となる。
 2021年 『チェス戦略大全Ⅲ』（翻訳本の完結）を出版。

私は昨年10月、心筋梗塞による心肺停止状態となり、外出先で倒れ、生死の狭間をさまよいました。

しかし大変幸運なことに、倒れた直後から、迅速で的確な救命措置が施されました。

そして私は奇跡的に一命をとりとめ、また後遺症もなく現在に至っています。

私はこれを天に生かされた命と思っています。

この頂いた命を日本チェス界の発展に捧げていきたいと強く思い、応募に至りました。

今日本チェス界に求められているものは会員の増加です。いかに増やすかが喫緊の問題です。会員がチェスができる環境を作ることが急務です。幸いなことに今もチェス活動をしているクラブないし休止しているクラブがたくさんあります（登録クラブ以外）。そうしたクラブをNCSに取り込むことが必要です。そうした活動家に働きかける繋がりを私小笠は持っていますしそれを十二分に発揮したいと思っています。また新たにクラブを作ることも必要です。また関連各種団体の連携が

必要です。（JOCへの任意団体復帰など）

このことはクラブ活動ばかりでなく今まで歩んできた人生の人のつながりある（高校・大学）同窓生（例えば「チェス戦略大全」の出版社社長など）に日本チェスへの支援・協力を仰ぐことは吝かではありません。

以上 応募理由・経歴を述べました。どうぞよろしくお願い致します。

Toyama, Leo

遠山 玲央

1981年生まれ（40歳） 東京都在住
 2005年3月 慶應義塾大学法学部政治学科卒業
 2011年4月 早稲田大学印欧語研究会入会
 2013年5月 早稲田大学印欧語研究会中退

職歴

2001年10月 メーリングリスト配信開始
 2007年7月 個人投資家開始

資格

2007年12月 日仏ギリシア・ローマ学会会員
 2013年6月 居合道初段合格
 2020年8月 ジャーナルポ『CKOYする世界』出版
 2020年10月 同英訳を自分で出版
 2021年10月 続編『CKOYのトリセツ』出版

特技

クラシックギター 35年
 ラテン語(英仏語併用) 10年
 テニス 25年

初めまして、遠山玲央と申します。40才、チェスでは中盤の殴り合いが得意です。

私はNCSの前身である日本チェス協会にも所属していました。渡井さんとも面識があります。日本チェス協会では小6の時にGWオープンで知り合った同い年の男の子(現:英国屋の社長)と中学受験を経て中学で(慶應義塾中等部)で再会した思い出があります。そうしたエリート子女の交流の場は新組織NCSでも提供可能と考えています。

私は父(最終レーティング1635)と何度も公式戦を戦いました。4年前のGWオープンでやっと父に勝利する事ができ、父からも一目置かれる存在になれたと自負しています。そうした親子の交流の場としてもNCSは機能すると考えています。

大学時代は専攻していた国際政治学と趣味の法学とギターのサークル運営に打ち込んでおりました。在学中から始まる今までの15年の私の活動は私の著作物『CKOYする世界』を読んで頂ければご理解頂けると思います。投資家兼ジャーナリストとして激動のグローバルマーケットから生活資金を調達しながら生存・自活できた事で、国際感覚や駆け引き・組織マネジメントに関して経験に裏打ちされた

確固たる自信を持つようになりました。

そして、本を上梓してその活動がひと段落したタイミングで、ひょんな機会にWikipediaに記載のあった『Deep BlueVSカスパロフ』の棋譜を自分なりに分析して感動し、今まで鍛えた学識・美学を集中して一念発起しチェスのグランドマスターを目指そうとNCSに加入しました。しかしよくよく考えてみると、プレイヤーとしてよりは組織運営の面でチェス文化に貢献できる理事の方が性に合っていると考えられるようになりました。

現在のチェス界隈はオンラインが主流と聞きます。オンラインで行われるイベントを逐次フォローし共有しつつ、オフラインでの会員同士あるいは凡そチェスプレイヤーのコミュニケーションを促進する触媒となる事がNCS理事には求められると考えます。その点において、私の情報収集能力とコミュニケーション能力はまさに適任と考えます。

また、私はトラブルコントラクターとしても有能です。世界政治におけるコンフリクトを取り巻く政治力学的論理を解明しその解決策を提示した私のジャーナルポ『CKOYする世界』は、20世紀世界を総括し21世紀

の開闢を記念する上で政治史においてとても有益であると考えています。チェスの組織を運営する上で生じ得るトラブルについても同様に、その原因と経過に論理的にアプローチし事態を改善する癒しの方策を提示できると思います。

英語力に関しては、大学院(ただし非正規学生として)でラテン語原典を英仏語訳を併用して読みこなすカリキュラムを父(早稲田大学名誉教授)の指導の元、習得しました。英会話に関しては実践する機会が余りなかったため未知数ですが、readingとwritingのスキルは既に備わっておりメールやチャットでならば十全に対応可能です。またBBCやCNBCなどの英語ニュースを視聴している時間が多く、hearingスキルについても不安はありません。

またパソコンスキルに関しては時代の最先端のツールを駆使する事ができます。Youtube個人チャンネルは再生回数30万超・登録者数2000人超ありまして(チェス関連の動画ではありませんが)、Twitterでは常に世の中の出来事に気を配っています。

NCS会員の皆様におかれましては、是非、私・遠山玲央をNCSの新しい理事に選出して頂きたく、よろしくお願い致します。